

公財全高農 農場協会新聞

第4号

発行所
公益財団法人
全国学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

生徒の出番だ！
先生も頑張るぞ！

特集号

”生徒の出番だ”

◎第16回エッセイコンテスト
◎第8回和牛甲子園
◎実践総合農学会
第17回地方大会

第16回全国農業関係高等学校エッセイコンテスト

第16回エッセイコンテスト審査会が令和6年12月18日に行われた。厳正な審査の結果、応募総数14編の中から、最優秀賞1編、優秀賞3編、佳作2編が決定した。

◎最優秀賞

『可能性を見つける』
東京都立園芸高等学校
1年 高久 心暖

◎優秀賞

『「米消費拡大」を目指した商品開発』
埼玉県立杉戸農業高等学校
3年 出井 桃奈

◎優秀賞

『「郷土料理しもつかれを人気者に」』
栃木県立栃木農業高等学校
2年 吉田 楓季

◎優秀賞

『大鹿歌舞伎を演じて』
長野県下伊那農業高等学校
3年 大森 将人

・佳作

『昆虫調査のスペシャリストを目指して』
大阪府立園芸高等学校
3年 竹内 陸

・佳作

『私の拘り 県産品の消費拡大をめざして』
長崎県立諫早農業高等学校
3年 酒井 美月

第16回全国農業関係高等学校エッセイコンテスト 講評
日本農林文学会 会長
間山 三郎

日本は何故こんなにも自然災害が多いのでしょうか。本年（二〇二四年）は元日に能登半島沖の地震があり、住民の力でやっと電気が復旧したところに、台風の直撃で能登半島は泥流に流された。……かける言葉がみつからないのです。支援の物資が一日でも早く届くように祈るばかりでした。日本の農業界を見ると、酪農を始めとしたすべての

業種において、明るい話題が見つからない状況の中にあると思いますが、高校生の描くエッセイは、そういう混沌とした現状の中から懸命に打開策を模索する姿を見せてくれます。「大人たちも、頑張れよ」そう言われている気がするのです。最優秀賞に選ばれた作品は、東京都立園芸高校の一年生、高久心暖さんの「可能性を見つける」。東京都の離島式根島出身の高久さんは、島には若者が働く産業がないため、島を出ていく現象をとらえました。中学時代の活動をもとに、深刻な問題に悩むより島が持っている特徴を生かし、そこから可能性を見つけ産業とすることを考えました。式根島の自然環境は、一年を通して種々の花が咲く、この花を利用してハチミツを生産しよう。そのためには養蜂の技術を学ぶことが必要で、園芸高校に進学したと言います。将来、養蜂家として島の産業を盛り上げていきたい。この発想は素敵です。何もないと嘆くよりもあるものを利用する。私は、SNSで式根島を初め

人類が直面する問題に答える。それが実学。

温暖化、資源枯渇、食料危機、絶滅危惧種の増加など研究対象は農学を起点に、あなたが想像する以上に広がりを見せています。

このような問題に答えていく学びや研究を在学中に体験することを実学と呼んでいます。

人類が直面する問題に答えていく人材を世の中に還していくことが東京農大の普遍的な使命なのです。



東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF
AGRICULTURE
〒156-8502東京都豊田区板倉1-1-1
https://www.nodai.ac.jp/

農学部

応用生物科学部

生命科学部

地域環境科学部

国際食料情報学部

生物産業学部

て見ました。美しい海と温泉もありますよね。頑張ってください。

優秀賞は三編です。埼玉県杉戸農業高校三年生の出井桃奈さんの「米消費拡大」を目指した商品開発の取り組み。アミロース値が高く乾燥しやすい「笑みたわわ」の米粉を利用した実験を重ねて、マドレーヌを作り上げ、販売先まで見つけ消費拡大につなげたこと。それだけではなく、食育にも力を入れたことなどを通して、地元の米消費拡大を大きく前進させたことは素晴らしい。

栃木農業高校二年生の吉田楓季さん、私の将来の夢は郷土料理「しもつかれ」を人気者に。私の生まれた茨城県下館市（現在は筑西市）は、吉田さんの住んでいる近くだと思うのですが、正月に母親はよく「しもつかれ」（しもつかれと同じもの）を作っていました。大人たちにはおいしい物のようでした。今なら食べられる気がします。子供の私には合わなかった。自分の目標は、栄養士になり給食センターで働くこと、

そして「しもつかれ」の普及を図っていきたい、と。成功を祈ります。

長野県の下伊那農業高校三年生の大森将人さんの「大鹿歌舞伎を演じて」。南信州の大鹿村に、300余年続いている大鹿歌舞伎があり、演じる者ばかりでなく、境内にゴザを敷き、ご馳走を食べ、酒を酌み交わしながら、一体となって芝居を楽しんでいる、その在りようが大切だと気付く。同感です。演じる人も、見ている人も、共に楽しくなければ、続いてはいかない。若者たちが楽しく感じているから、伝統は守られているのだと思います。

第8回 和牛甲子園

令和7年1月16・17日に、東京都港区（品川グラントホールおよび東京食肉市場）にて開催されました。今年、北海道岩見沢農業高等学校・北海道帯広農業高等学校・兵庫県立但馬農業高等学校が初出場で参加校は、26道府県40校が出場しました。

総合評価部門 【最優秀賞】



広島県立西条農業高等学校

取組評価部門 【最優秀賞】



岐阜県立加茂農林高等学校

○優秀賞 2校

岐阜県立大垣養老高等学校
鹿児島県立市来農芸高等学校

○優良賞 3校

宮城県農業高等学校
広島県立西条農業高等学校
宮崎県立高鍋農業高等学校
◇審査委員特別賞
栃木県立矢板高等学校
◇高校牛児特別賞
宮城県農業高等学校

枝肉評価部門 【最優秀賞】

鹿児島県立鹿屋農業高等学校

○優秀賞 2頭

栃木県立矢板高等学校

広島県立西条農業高等学校

○優良賞 3頭

福島県立磐城農業高等学校
栃木県立那須拓陽高等学校
鹿児島県立市来農芸高等学校
◇審査委員特別賞
宮崎県立高鍋農業高等学校

令和6年度 実践総合農学会 連携シンポジウム

会場 東京農業大学 サイエンスポート
実践性と問題解決力が素晴らしい高校生の取組
講師：実践総合農学会

会長 門間 敏幸

2024年12月14日（土）に東京農業大学のサイエンスポートで開催されました実践総合農学会研究成果発表会におきまして、以下の2校の高校生3つの発表が行われました。

1 茨城県立水戸農業高等学校
「規格外イチゴの活用〜ビジネスモデルの構築及び農福連携の推進〜」
2 茨城県立水戸農業高等学校
「シャインマスカット栽培

の普及で稲作農家所得倍増計画」

3 東京都立農産高等学校
「味噌カレープロジェクト」3つの発表のいずれにつきましても、非常に問題意識が明確で、農家が抱えている課題の解決、食品企業との連携による新たな食品の開発に関わる実践的な取組でした。

個別発表プログラム報告書

茨城県立水戸農業高等学校

教諭 藤崎 克彦

令和6年12月14日（土）に、東京農業大学の世田谷キャンパスで開催された実践総合農学会研究成果発表会に参加させていただきました。本校農業2年果樹専攻チームの生徒3名が、「シャインマスカット栽培の普及で稲作農家所得倍増計画」と題して発表しました。

○発表内容

稲作農家にある育苗用のハウスは3月から5月までの短期間しか使用していません。ブドウのハウス使用時期は5月から11月まで。棚上ではブドウを栽培し、棚下ではイネの育苗ができ

るのです。

このアイデアは実践的だと考え、農家に提案したところ、一緒にブドウ栽培に取り組んでいただく

けることになりました。高級ブドウ「シャインマスカット」の根圏制御栽培によ

つて栽培2年目から安定した生産が可能となり、収益向上に貢献することができました。

また、ブドウ栽培経験の無い稲作農家にとって初めて行うジベレリン処理も5色のジベレリン処理とジベレリン処理の提案で

分かなりやすいと好評でした。実践総合農学会会長の門間敏幸先生からは、中小規模稲作農家の経営複合化による収益向上モデルを提起しており、「シャインマスカット」に限らず、他の果樹と稲作との複合経営の道を開くものであり、今後の展開がおおいに期待できる



との評価をいただき、発表した生徒の大きな励みになりました。貴重な発表の機会をいただきました。ありがとうございます。

茨城県立水戸農業高等学校

教諭 鹿島 正浩

本校の農業研究部が取り組んできたU・I・Oの取組の一つとして「規格外イチゴの活用」ビジネスモデルの構築と農福連携の推進」という題で3名の1年生女子部員が発表しました。

○発表内容

研修先のイチゴ農家で1日50kgの廃棄イチゴがでることから、それを活用してイチゴの生バスタを商品化しました。原価率30%以下、利益目標を立て販売累計1万食を突破し、提携農家の廃棄率6割削減と57万円の所得向上

となりました。またイチゴタローというキャラクターを考案し、食品ロス



削減をテーマにした紙芝居を作成しました。近隣の幼稚園で食育活動を実施したり、イチゴのペースト作業などの軽作業を障がい者施設の利用者と協働で行うなど、さらにU・I・Oの観点を追求しました。今後は法人化に向けて活動したいと思っています。

門間先生から、規格外イチゴの収益性に関して綿密な経営試算を行ってビジネスモデルを作成し、学生による法人化に向けた取組を行うなど、意欲的な活動について高く評価いただき、さらに商品原料を提供してくれる生産者との連携、商品開発戦略、販売戦略を地域活性化に結び付ける法人づくりとその持続的な展開を期待しているとの講評をいただきました。生徒たちにとって自信を深める貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

東京都立農産高等学校
教諭 佐藤 駿樹

私たちは「味噌カレーで地域をつなぐ、味噌カレーで世界とつながる」をモツ

トーに活動しています。

農産高校では昔ながらの杉樽で仕込んだ「かめさん味噌」を製造しています。

この味噌を利用し、地元企業「ワタナベ食品株式会社」さんと協力して「味噌カレー」を製造しています。

平成29年度高校生夕張キヤンプで「夕張カレーそば」を食べた



際、カレーそばと味噌の相性がいことを発見しました。その後、学校に戻り、醸造部と協力して農産高校のブランド品「かめさん味噌」を利用したカレーの開発にとりかかりました。そして、平成30年にレトルトカレー「農産高校のみそカレー」が完成。学校創立70年の記念品として製品化しました。その後、地元企業と連携した新たな味噌カレーの開発・製造を考えていましたが、コロナ禍により、断念せざるを得ない状況に

なっていました。プロジェクト活動は一時休止していましたが、昨年度、味噌カレーを開発しようとプロジェクトメンバーが集まりました。

味噌カレーを製造するにあたってまずは、カレーの製造方法から教えていただきました。次にプロジェクトメンバーとワタナベ食品さんと味噌カレーの味について検討しました。

「味噌感はどれくらいにするか」「商品のターゲットはどこにするか」などについて話し合いました。そして、今年の8月に「味噌カレー」が完成しました。現在、開発にかかわった第一期生を引き継いで、第二期生が活動しています。今回はこれまでの活動や販売実習、今後の活動計画などをパワーポイントにまとめ、発表をさせていただきました。

○大会に参加して

今回はプロジェクト発表会にメンバーの1年生全員で参加しました。1年生だけの発表で不安もあり、発表会の直前まで練習をしました。当日、質問に答え

られなかったことや緊張して思うように声を出せなかったことが反省点です。それでも、自分たちの発表によって、多くの方にプロジェクト活動を知ってもらい、興味をもってもらうことができたと思います。この発表を通して、関係者の皆様に沢山の意見をいただきました。「普通のカレーと味噌カレーと味の違い」「高校生らしい味噌カレー」とは何か」などの質問・意見がありました。その時にいただいた意見は今後の活動につながると思いました。

今後の活動予定は本校の農産祭で味噌カレーを売った料理の販売、地域の学校や個人店などに味噌カレーを利用した料理を提供してもらうことです。農産高校を多くの人に知ってもらうとともに「味噌カレー」という葛飾区の新たな名物をつくりたいと考えています。

「味噌カレーで地域をつなぐ、味噌カレーで世界をつなげる」の実現に向けてこれからも活動していきます。

先生も頑張るぞ

・全国大会
・支部大会
・農業実習講習会

◎令和7年度全国高等学校農場協会第74回全国大会並びに研究協議会

6月5日(木)～6月6日(金) 星陵会館千代田区永田町予定

◎令和7年度

全国高等学校農場協会支部大会《実施計画》

〔期日・会場・事務局〕

第29回 北海道支部大会

7月29日(火)～7月30日(水) 釧路センチュリーキャッスルホテル

北海道標準茶業高等学校

第23回 東北支部大会

8月7日(木)～8月8日(金) 公立学校共済組合仙台台宿泊所ホテル白萩

宮城県農業高等学校

第74回 関東支部大会

8月18日(月)～8月19日(火) ロイヤルホールヨコハマ

神奈川県立相原高等学校

第49回 北信越支部大会

8月7日(木)～8月8日(金) 公立共済「ホテル信濃路」

長野県南安曇農業高等学校

第26回 近東支部大会

姫路キャッスルグランヴィリオホテル

兵庫県立農業高等学校

第72回 中国支部大会

8月20日(水)～8月21日(木) ホテルセントパレス倉吉

鳥取県立倉吉農業高等学校

第56回 四国支部大会

8月18日(月)～8月19日(火) にぎたつ会館

愛媛県立伊予農業高等学校

第71回 九州支部大会

8月21日(木)～8月22日(金) 学校法人南九州学園

南九州大学

宮崎県立宮崎農業高等学校

◎令和7年度

第69回農業実習講習会

申込期日 4月1日(火)～6月2日(月) 《実施計画》

〔科目・会場・期日・事務局〕

北海道地区 「農業経営」

帯広畜産大学

8月4日(月)～8月8日(金) 北海道帯広農業高等学校

内容 「農業経営の授業改善と農業経営者の育成ポイント他」

東北地区 「農業と環境」

山形大学 農学部

8月4日(月)～8月6日(水) 山形県立村山産業高等学校

内容 「水稻の出穂期をどう定めるか、なぜ必要か他」

関東地区 「農業と環境」

高崎健康福祉大学農学部

8月4日(月)～8月8日(金)

群馬県立勢多農林高等学校

内容 「水稻の種子選別と播種に関する講義・実験他」

近東地区 「農業と環境」

近畿大学 農学部

8月4日(月)～8月8日(金)

奈良県立御所実業高等学校

内容 「PCRによるウイルス感染診断他」

中国地区 「農業と環境」

岡山大学 農学部

8月4日(月)～8月8日(金) 岡山県立高松農業高等学校

内容 「花卉園芸と環境他」

九州地区

「農業と環境」「栽培と環境」

琉球大学 農学部

8月27日(水)～8月29日(金)

沖縄県立北部農林高等学校

内容 「講習テーマ：沖縄の土壌について他」

事務局より連絡

○第74回全国大会並びに研究協議会の大会資料費は会場参加者は6千円、リモート参加者は3千円です。

出席参加者は4月4日まで提出をお願いします。

教育懇談会は星陵会館4Fで会費9千円で行います。



すべてをつなぐキーワードは「いのち」。

安心・安全・健康な「食」。

地球・環境に配慮した「緑」。

健やかな未来を育む「人」。

宮崎県から、日本の未来を牽引する人材を育成しています。

いのちを学ぶ大学
南九州大学

環境園芸学部 人間発達学部
環境園芸学科 子ども教育学科

〒885-0035 宮崎県都城市立野町 3764-1

健康栄養学部
食品開発科学科 管理栄養学科

〒880-0032 宮崎県宮崎市龍島5-1-2